

教科(科目)	家庭(家庭情報処理)	実施学年 (履修規定)	第1学年
単位数	2単位	教科書	実教出版 家庭情報処理
		副教材	ワープロ実務検定模擬試験問題集3級
科目の目標	社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させるとともに、情報処理に関する知識と技術を習得させ、生活産業の各分野で情報及び情報手段を活用する能力と態度を育てる。		
目標達成に向けての取組	1 社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させ、情報処理に関する知識と技術を習得させます。 2 生活産業の、各分野の情報を収集・分析・発信する手段を活用する能力と態度を身につけます。		

◇ 進度

月	単元	学習内容・項目・活動等	評価方法・項目等	評価の規準等
4 ・ 5	はじめに	『家庭情報処理』を学ぶにあたってのオリエンテーション		コンピュータ室利用に当たっての注意事項が理解できる。
	第1章 高度情報通信社会とコンピュータ	1. 私たちの生活と高度情報通信社会 (1) 情報化と高度情報通信社会 (2) 生活・産業の情報化 (3) 情報処理とコンピュータ 2. 生活とネットワーク (1) 情報通信ネットワークのなりたち (2) 生活への情報通信ネットワークの利用 3. 生活産業とコンピュータ (1) コンピュータの種類 (2) 生活産業へのコンピュータの利用	プリント 授業観察	・高度情報通信社会における産業や生活の変化について、具体的に理解ができる。 ・生活産業におけるコンピュータの役割や利用状況について理解できる。
	第3章 コンピュータの機能	1. コンピュータの基本的な仕組み (1) コンピュータの機能 (2) コンピュータの基本動作 2. ハードウェア (1) コンピュータの基本的な装置 (2) コンピュータの周辺機器とそのはたらき (3) パソコンの基本操作 3. ソフトウェア (1) コンピュータとソフトウェア (2) OSの役割 (3) アプリケーションソフト	プリント 授業観察	・コンピュータのしくみとおもな機能について理解できる。 ・オペレーティングシステムの概要やコンピュータによる情報処理手順が理解できる。
	中間考査			
6 ・ 7	第4章 情報の処理	1. 日本語ワードプロセッサによる情報の処理 (1) 日本語ワードプロセッサの機能 (2) ワープロの利用	課題提出 授業観察	・日本語ワードプロセッサに関する基本的な知識を習得することができる。 ・ワープロ検定に向けて積極的に取り組んでいる。
期末考査				

月	単 元	学習内容・項目・活動等	評価方法・項目等	評価の規準等
9 ・ 10		2. 表計算ソフトによる情報処理 (1) 表計算ソフトの機能 (2) 表計算ソフトの利用	課題提出 授業観察	・表計算ソフトについて理解し、基本操作ができる能力を身につけている。 ・データを分析し活用できる能力を身につけている。
	中間考査			
11 ・ 12		3. 画像処理ソフトによる情報の処理 (1) 画像処理ソフトの概要 (2) 画像処理ソフトの機能 (3) 画像処理ソフトの利用	課題提出 授業観察 作品相互評価	・画像処理ソフトについて理解し、操作方法を習得している。 ・はがき、ポスターなど様々な活用方法を学び、情報を的確に処理する能力を身につけている。 ・自分の作品の意図を適切に発表できる。
	期末考査			
1 ・ 2 ・ 3	第2章 高度情報通信社会への対応のしかた	1. 高度情報通信社会の発展にともなう課題 (1) 高度情報通信社会とインターネット (2) 情報の選択と発信 (3) 高度情報通信社会の問題と法律 2. 情報通信ネットワーク上のルールとマナー 3. 情報通信ネットワークとセキュリティ (1) ネットワーク利用のあやうさ (2) セキュリティ対策とその限界	ワークシート 授業観察 意見発表と相互評価	・個人のプライバシーや著作権の保護、収集した情報の管理、発信する情報に対する責任などについて、その重要性を理解できる。 ・情報通信ネットワークシステムにおけるセキュリティ管理の重要性について理解できる。
学年末考査				

評価の観点及び趣旨

①関心・意欲・態度

・社会における情報化の進展や、情報の意義・役割に関心をもっている。

②思考・判断

・近年の社会における情報化の進展や、高度情報通信社会における生活の変化に課題を見つけ、思考を深める。また、考えをまとめて判断ができる。

③技能・判断

・コンピュータ等の情報機器や情報通信ネットワーク等、情報手段を円滑に活用できる技術を身につける。
・生活産業の各分野で情報及び情報手段を活用できる。

④知識・理解

・高度情報通信社会における情報の意義・役割について理解できる。

「家庭情報処理」の総合評価における各観点の割合

① 関心・意欲・態度	20%程度	② 思考・判断	20%程度
③ 技能・表現	40%程度	④ 知識・理解	20%程度